



# SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.9 2006.6



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

## 目次

		ページ
● トピック	IAMOT 2006 若手研究者国際会議実践研鑽	1
● イベント報告	知的財産部門と他部門との連携に関する研究 アジア自動車産業の実力	2
● 海外活動報告	清華大学副学長との会談	2
● コラム	社会調和共進型 SCM	3
● 学生の目	新しい知識の誕生と SIMOT	3
● 最近の動き		4
● イベント予定	研究・技術計画学会 国際問題分科会 6月例会 第4回 東工大 Inter-COE21 シンポジウム	4
● 連絡先		4

## トピック

### IAMOT 2006 若手研究者国際会議実践研鑽 (2006年5月22-26日 北京)

国際MOT学会 (IAMOT) および清華大学の主催で開催された国際会議「IAMOT 2006 15th International Conference on MOT」にセンター長の渡辺千仞教授およびSIMOT若手研究者3名が参加、研究発表を行いました。

SIMOT年次国際シンポジウムで基調講演をされたこともあるIAMOT会長 タレク・クハリル氏とは既に懇意であり、これを機会に、IAMOTとの国際共同研究・教育の発展をさらにはかるべく合意し、加えて、センター長が清華大学副学長との会談を行いました (清華大学副学長との会談については「海外活動報告」参照)。



タレク・クハリル IAMOT 会長 (中央) とセンター長および SIMOT 若手研究者

## ■ イベント報告 ■

### 公開セミナー「知的財産部門と他部門との連携に関する研究」 (2006年3月17日 東工大 田町キャンパス)

SIMOT の基盤研究テーマの一つである「無形資産の在庫マネジメント」に関連して、SIMOT 研究センター研究員/運営委員 田中義敏助教授が中心となって「企業の知的財産部門と他部門との連携のあり方」をテーマに公開セミナーを開催しました。

知財立国を標榜する日本における産業の国際競争力向上の一つとして、休眠特許発生の原因とされる知的財産部門と他部門との連携の欠如に焦点を当て、現状分析および求められる将来像について、各産業界の立場からの講演が行われました。活発な議論を通じ、知的財産戦略の企業経営への貢献度合を増すためには、知的財産活動を如何に企業経営に有機的に繋げていくかが大きな課題であり、知的財産部門が社内他部門に対して積極的な関わりを持ち、統合された一連の仕組みを構築していくことが重要であるとの認識が示されました。



### アジア自動車産業の実力 (2006年5月15日 東工大 百年記念館)



5月例会では、三菱総合研究所 上席研究理事の土屋勉男氏に、「アジア自動車産業の実力」とのテーマで講演していただきました。土屋氏は産業政策、経営戦略(グローバル戦略)を専門とされ、今講演では、「グローバル戦略と課題」：日本自動車メーカーのグローバル化の進展と構造改革、

「アジア市場における実力・成功条件」：中国を中心としたアジア市場の動向と展望、について豊富な統計資料を基に解説するとともに、それらから導かれるインスティテューショナル技術経営への示唆に言及されました。会場にはSIMOT関係者の他、豊田中央研究所研究員をはじめとする各分野の先端研究者が訪れ、活発な議論が行われました。



## ■ 海外活動報告 ■

### 清華大学副学長との会談 (2006年5月23日 北京 清華大学)

清華大学は北京大学と並ぶ中国トップの理工系大学で、2004年から東工大とも大学院合同プログラムを推進しており、昨年8月にはこれが文部科学省による「戦略的国際連携支援プログラム」に採択され、より一層の取り組み強化が期待されています。

5月の末に北京でIAMOT(国際MOT学会)の年次総会が開かれ、センター長の渡辺千仞教授が参加した際に、先方の要請に応じて何建坤(He Jiankun)副学長との会談が行われました。

SIMOTは、すでに清華大学とは朱兵助教授を核に共同研究を展開しているところですが、何建坤副学長は、国立大学の独立行政法人化、21世紀COEのシステム、そしてSIMOTのコンセプト、中でもSIMOTから中国の技術・経済開発にどのような示唆が得られるかに強い関心を示され、予定時間を大幅に超過し1時間近く熱心な討議が続き、今後ますますSIMOTとの交流が拡大されることを強く要請されました。



## コラム

### 「社会調和共進型SCM」

SIMOT 特任教授

現 慶応義塾大学理工学部教授

曹 徳弼



1960年アメリカの学者 Clark と Scarf がエシェロン在庫の概念を提出して以来、半世紀にわたり生産在庫管理分野では部門の壁を越えた統合意思決定に関する研究が盛んに行われてきた。その成果は近年情報通信技術の進歩の恩恵を受けて企業内業務統合システムに組み込まれ、管理の精度を高めると同時に生産物流の最適な意思決定を可能にすることで企業競争力の基盤となっている。そして現在この延長線に企業間に介在する各種無駄をなくすべく組織の壁を越えた統合意思決定に関する

研究が幅広く行われ、サプライチェーンマネジメントとして知られている。しかしながら、統合意思決定には人に纏わる複雑な社会的軋轢を伴うために、モラルハザードや組織の硬直化などの問題点が指摘されており、巨大化する組織の上に成立つ集権的な意思決定には限界があるだけでなく、「計画経済」の失敗の覆轍を踏む危険性さえも孕んでいる。

このような問題を解決するためには、大規模問題の最適な意思決定が技術的に可能になった現在でも、各企業組織の独立な意思決定を前提としながら、情報の共有や戦略的提携など最適意思決定モデルの前提または制約条件となる社会的な仕組みを現状打破的に改革し、さらに法律という他律を超えた社会の調和と共進(co-evolution)を促進する自律的な意思決定が求められている。これが現代日本社会におけるグローバル競争力の一つの中核問題であると考えられ、モノの流れから見た SIMOT の理念の写像であると理解している。その意味で社会調和共進型サプライチェーンマネジメント(Institutional Supply Chain Management)に関する研究およびその成果が社会の発展に大きく貢献できることを願いたい。

## 学生のみ

東京工業大学大学院社会理工学研究科

経営工学専攻博士課程 3年

栗原 岳史

### 新しい知識の誕生と SIMOT



新しい知識はどのようにして生まれるのだろうか。その重要な条件のひとつは、異なる分野間での知識の交流がなされることである。

近代科学の基礎を築いたガリレオの研究活動は、ガリレオと職人たちとの交流に支えられていた。職人たちとの知識の交流が、新しい力学や天文学を創りだしたガリレオの研究活動の土台だった。職人たちとの交流は、類まれなガリレオの個性によるところが大きかった。ガリレオと異なり、人為的に知識の交流を行ったのが、第二次世界大戦期の米国の科学動員である。

米国の科学動員は、様々な分野の科学者や技術者を動員して研究開発活動を行なった。その結果、異なる分野の知識の交流が行なわれ、レーダーや原子爆弾など最新の科学知識に基づく新しい技術が生みだされた。

我々の研究する SIMOT とは、研究開発活動それ自体を研究の対象とする学問である。SIMOT に集まる人々は実に多彩で、異なる分野の知識の交流が起きている。SIMOT を通じて、新しい知識が続々と生み出されるに違いない。いったいどのような知識が生まれるのだろうか。

ガリレオの研究は近代科学の基礎を生み出した。しかし、研究開発活動は、原子爆弾のような大量殺戮兵器を生み出してしまう場合もある。SIMOT は平和国家であることを選択した日本で生まれたのだから、その国家理念にふさわしい成果を生み出すであろうと私は信じる。





## SIMOT とは・・・

SIMOT とは、「インスティテューショナル技術経営学 (The Science of Institutional Management of Technology)」の略称です。日本の技術経営が本来機能を回復するのを見据え、世界価値を創造するダイナミズムについての理論および方法論の探究を目指します。“サイモット”と呼称しています。

## ■ 最近の動き ■

### 海外出張

- 伊藤 7月8日~17日 オランダ マーストリヒト (16th Triennial Congress of the International Ergonomics Association IEA で基調講演)  
デンマーク (Risoe National Laboratory 「患者安全」に関する研究打ち合わせ)
- 飯島 6月25日~27日 中国 香港 (The Institute for Operations Research and the Management Sciences INFORMS にて発表)
- 7月5日~10日 マレーシア クアラルンプール (Pacis2006 に参加)
- 妹尾 7月9日~13日 トルコ イスタンブール (Portland International Conference on Management of Engineering and Technology PICMET06 にて発表)

## ■ イベント予定 ■

### 研究・技術計画学会 国際問題分科会 6月例会

- 日時 6月22日(木) 18:00~20:00  
場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室  
テーマ 日本企業の組織・制度・文化とハイテク・イノベーション  
- 「インスティテューショナル技術経営学」への示唆  
講師 菅野 寛氏 (ボストン コンサルティング グループ ヴァイス・プレジデント&ディレクター)

### 第4回 東工大 Inter-COE21 シンポジウム

- 日時 8月11日(金)  
場所 東京工業大学  
テーマ 君たちの創るニュービジネス - 先輩社長の在学ベンチャー体験/革新商品の体感実験  
内容 在学ベンチャー体験: 先輩社長のトーク  
革新商品の体感: 市場化前デモンストレーション  
みんなでトーク: 君たち、社長、東工大生

### ●● 発行 ●●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム  
「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51  
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内  
西9号館 208B号室  
TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250  
Email: [nakane@me.titech.ac.jp](mailto:nakane@me.titech.ac.jp)  
URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>  
編集者: 菊池 隆